

奈良県の母子保健の現状・県母子保健事業実績

- (1) 奈良県の主な母子保健統計の動向
- (2) H T L V - 1 陽性妊婦支援状況
- (3) 先天性代謝異常等検査の概要
- (4) 小児慢性特定疾病医療費支給認定の概要
- (5) 新生児聴覚検査の概要
- (6) 乳児股関節健診の概要

(1) 奈良県の主な母子保健統計の動向

奈良県の主な母子保健統計の動向														
項目	年次	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	(参考) R3全国		
出生	出生数(人)	10,565	10,190	9,625	9,832	9,430	8,965	8,947	8,323	7,831	7,751	811,622		
	出生率(人口千対)	7.7	7.4	7.0	7.3	7.0	6.7	6.7	6.3	6.0	6.0	6.6		
	合計特殊出生率	1.32	1.31	1.27	1.38	1.36	1.33	1.37	1.31	1.28	1.3	1.3		
	低出生体重児	総数(人)	955	980	866	903	891	773	835	731	710	684	76,060	
		～ 499g	2	1	5	2	4	3	5	4	0	1	293	
		500～ 999g	27	31	27	24	21	22	20	13	16	13	2,150	
		1,000～1,499g	35	46	37	34	36	36	36	26	43	15	3,647	
		1,500～1,999g	129	116	108	112	134	93	113	95	93	103	9,975	
		2,000～2,499g	762	786	689	731	696	619	661	593	558	552	59,995	
		率(出生千対)	90.4	96.2	90.0	92.0	94.4	86.2	93.3	87.8	90.7	88.2	93.7	
(再掲)極低出生体重児(出生千対)		6.1	7.7	7.2	5.2	6.5	6.8	6.8	5.2	7.5	3.7	7.5		
死産		数(人)	269	255	205	214	190	211	179	184	158	134	16,277	
	率(出産千対)	25.5	24.4	20.9	20.9	19.8	23.0	19.6	21.6	19.8	17.0	19.7		
	自然死産	数(人)	124	114	99	106	89	104	79	86	73	66	8,082	
		率(出産千対)	11.7	11.0	10.1	10.6	9.3	11.3	8.7	10.1	9.1	8.4	9.8	
	人工死産	数(人)	145	141	106	108	101	107	100	98	85	68	8,195	
		率(出産千対)	13.7	13.4	10.8	10.8	10.5	11.7	11.0	11.5	10.6	8.6	9.9	
死亡	妊産婦死亡	数(人)	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	21	
		率(出産10万対)	18.5	0	0	19.9	0	0	11	0	0	0	2.5	
	周産期死亡	総数(人)	35	44	37	51	35	42	34	28	26	26	2,741	
		率(出産千対)	3.3	4.4	3.8	5.2	3.7	4.7	3.8	3.4	3.3	3.3	3.4	
		妊娠満22週以後の死産	数(人)	31	38	27	43	25	33	26	21	20	20	2,235
			率(出産千対)	2.9	3.8	2.8	4.3	2.6	3.7	2.9	2.5	2.5	2.6	2.7
		早期新生児死亡	数(人)	4	6	10	8	10	9	8	7	6	6	506
			率(出生千対)	0.4	0.6	1.0	0.9	1.1	1	0.9	0.8	0.8	0.8	0.6
	新生児死亡	数(人)	7	9	12	10	12	12	9	8	6	7	658	
		率(出生千対)	0.7	0.9	1.2	1.0	1.3	1.3	1.0	1.0	0.8	0.9	0.8	
乳児死亡	数(人)	25	19	24	16	30	23	20	15	13	17	1,399		
	率(出生千対)	2.4	1.9	2.5	1.6	3.2	2.6	2.2	1.8	1.7	2.2	1.7		

出典：人口動態統計

<言葉の定義>

- 出生率：件数/人口×1,000
- 合計特殊出生率：(母の年齢別出生数/同年齢の女子人口)の15歳から49歳までの合計
- 死産：妊娠12週以後における死児の出産 死産率=死産数/(出生数+死産数)×1,000
人工死産：胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的処置を加えたことにより死産に至った場合をいう。
自然死産：人工死産以外の場合をすべて自然死産とする。
- 妊産婦死亡率：妊産婦死亡数/(出生数+死産数)×100,000
- 周産期死亡率：(妊娠満22週以後の死産数+早期新生児死亡数)/(出生数+妊娠満22週以後の死産数)×1,000
妊娠満22週以後の死産率：妊娠満22週以後の死産数/(出生数+妊娠満22週以後の死産数)×1,000
早期新生児死亡：早期新生児死亡数/出生数×1,000(生後1週未満の死亡)
- 新生児死亡率：新生児死亡数/出生数×1,000(生後4週未満の死亡)
- 乳児死亡率：乳児死亡数/出生数×1,000(生後1年未満の死亡)

2)HTLV-1陽性妊婦支援状況

	新規支援者数 (人)	保健所管内別新規支援者数 (人)			
		奈良市保健所	郡山保健所	中和保健所	吉野保健所
平成26年度	4	1	1	2	0
平成27年度	9	2	2	5	0
平成28年度	7	2	4	1	0
平成29年度	7	3	1	3	0
平成30年度	8	1	1	6	0
令和元年度	6	3	1	2	0
令和2年度	2	0	0	2	0
令和3年度	4	0	1	2	1

① 奈良県 HTLV-1 母子感染予防対策検討会

<目的> 県の現状をふまえた HTLV-1 母子感染予防対策の体制整備を図るため、関係行政機関、医療関係団体、有識者等を構成員として検討会を開催

<検討内容>

- (1)妊婦に対する HTLV-1 抗体検査の適切な実施に関する事項(抗体検査陽性者への対応等)
- (2)HTLV-1 母子感染に係る相談窓口に関する事項
- (3)HTLV-1 母子感染に関する普及啓発事項
- (4)HTLV-1 母子感染対策に携わる関係者の研修及びその他保健指導の向上に関する事項
- (5)HTLV-1 母子感染対策に係る医療機関の連携に関する事項
- (6)HTLV-1 母子感染対策の評価に関する事項
- (7)その他 HTLV-1 母子感染対策の体制整備に関する事項(児・母親のフォロー体制)

<開催状況>

H27年度・H28年度・H29年度・H30年度開催

② 奈良県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会

<目的> HTLV-1 母子感染予防対策や相談等を担う HTLV-1 母子感染予防対策関係者が、HTLV-1 に関する基本的・専門的知識を習得し、児への感染予防対策を適切に指導し、将来への不安を解決するための支援が行えることを目指し開催する。

<研修会テーマ> 「HTLV-1 母子感染の現状と感染予防対策」

「HTLV-1 母子感染予防対策と最新情報」

<開催状況>

H27年度・H28年度・H29年度・H30年度開催

(3)先天性代謝異常等検査の概要

■合計検査件数及び検査項目別内訳

<令和3年度>

検査項目別内訳	初回検査(人) (受検者実人数)	再検査件数		要精検人数(人) (要精検実人数)	要精検率 (%)	疑われた疾患
		再検査依頼件数 (延べ件数)	再検査実施件数 (延べ件数)			
タンデムマス法	8,596	13	8	5	0.06	① 3-メチルクロトニルグリシン尿症 3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸血症 複合カルボキシルゼ欠損症 ② 3-メチルクロトニルグリシン尿症 3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸血症 複合カルボキシルゼ欠損症 ③ CPT-II欠損症 ④ シトルリン血症I型 アルギノコハク酸尿症 ⑤メチルマロン酸血症 プロピオン酸血症
ガラクトース血症		23	23	1	0.01	ガラクトース血症 1件
先天性甲状腺機能低下症		162	159	10	0.12	先天性甲状腺機能低下症 10件
先天性副腎過形成		66	35	2	0.02	先天性副腎過形成症 2件
令和3年度累計	8,596	264	225	18	0.21	延べ 18件

<令和2年度>

検査項目別内訳	初回検査(人) (受検者実人数)	再検査件数		要精検人数 (人) (要精検実人数)	要精検率 (%)	疑われた疾患
		再検査依頼件数 (延べ件数)	再検査実施件数 (延べ件数)			
タンデムマス法	8,563	13	12	3	0.04	①CPT-II欠損症 ②シトルリン血症1型 アルギノコハク酸尿症 ③フェニルケトン尿症
ガラクトース血症		21	21	2	0.02	ガラクトース血症 2件
先天性甲状腺機能低下症		138	135	16	0.19	先天性甲状腺機能低下症 16件
先天性副腎過形成症		60	28	1	0.01	先天性副腎過形成症 1件
令和2年度累計	8,563	232	196	22	0.26	延べ 23件

※重複して2疾患が「要精密検査」結果となった者1名

<令和元年度>

検査項目別内訳	初回検査(人) (受検者実人数)	再検査件数		要精検人数(人) (要精検実人数)	要精検率 (%)	疑われた疾患
		再検査依頼件数 (延べ件数)	再検査実施件数 (延べ件数)			
タンデムマス法	9,298	28	26	3	0.03	①CPT-2欠損症 ②ホモシスチン尿症 ③CPT-2欠損症
ガラクトース血症		18	17	2	0.02	ガラクトース血症 2件
先天性甲状腺機能低下症		111	109	16	0.17	先天性甲状腺機能低下症 16件
先天性副腎過形成症		87	48	3	0.03	先天性副腎過形成症 3件
令和元年度累計	9,298	244	200	24	0.26	延べ 24件

- ・検査対象は県内出生児であり、他県在住の里帰り児を含む一方、奈良県在住であっても他県で出生した児は含まれない。
(検査機関報告からの集計(検査料金請求ベース)であり、以下の点に注意)
- ・【再採血(全検査を実施)】対象であった場合は、再検査基準に相当する検査項目があっても【再検査】には計上されず、【再採血】として計上。
- ・再検査実施数は 該当年度に実施した数であるため、前年度出生児(前年度に再採血を依頼)であって該当年度に検体提出されたものを含む。一方、該当年度に再採血依頼をも、検体提出が次年度になったものは含まれない。

■奈良県先天性代謝異常検査等実施状況について

2021年度、2020年度、2019年度の検体について記載しています。

2021年度 (R3年度)	検査検体※1 (実人数)	要精密検査 とされた数	確定診断 数※2
タンデムマス法	8,783(8,596)	5	2
ガラクトース血症	8,797(8,596)	1	0
先天性甲状腺機能低下症	8,933(8,596)	10	—
先天性副腎過形成	8,809(8,596)	2	1
計	35,322(8,596)	18	3

※1 検査検体数＝初回検査検体＋再採血検体＋再検査検体の合計

※2 県内主要4病院で確定診断を行った数の合計

要精密検査とされた数について
・タンデムマス法5名のうち、確定診断2名、異常なし1名(2名不明)
・ガラクトース血症1名は、異常なし
・先天性副腎過形成は2名のうち、確定診断1名(1名不明) →8名のうち5名の結果が判明し、3名は不明。

2021年度(令和3年度) タンデムマス法精査理由
① 3-メチルクロニルグリシン尿症 3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸血症 複合カルボキシルゼ欠損症
② 3-メチルクロニルグリシン尿症 3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸血症 複合カルボキシルゼ欠損症
③ CPT-II欠損症
④ シトルリン血症I型 アルギノコハク酸尿症
⑤ メチルマロン酸血症 プロピオン酸血症

2020年度 (R2年度)	検査検体※1 (実人数)	要精密検査 とされた数	確定診断 数※2
タンデムマス法	8,749(8,563)	3	2
ガラクトース血症	8,760(8,563)	2	0
先天性甲状腺機能低下症	8,874(8,563)	16	—
先天性副腎過形成	8,765(8,563)	1	0
計	35,148(8,563)	22	2

※1 検査検体数＝初回検査検体＋再採血検体＋再検査検体の合計

※2 県内主要4病院で確定診断を行った数の合計

2020年度(令和2年度) タンデムマス法精査理由
① CPT-II欠損症
② シトルリン血症I型 アルギノコハク酸尿症
③ フェニルケトン尿症

2019年度 (R元年度)	検査検体※1 (実人数)	要精密検査 とされた数	確定診断 数※2
タンデムマス法	9,298(9,113)	3	1
ガラクトース血症	9,292(9,113)	2	0
先天性甲状腺機能低下症	9,382(9,113)	16	—
先天性副腎過形成	9,325(9,113)	3	1
計	37,297(9,113)	24	2

※1 検査検体数＝初回検査検体＋再採血検体＋再検査検体の合計

※2 県内主要4病院で確定診断を行った数の合計

2019年度(令和元年度) タンデムマス法精査理由
① CPT-II欠損症
② ホモシスチン尿症
③ CPT-II欠損症